

令和6年度 第1回 ビジネス実務学科FD 報告

日 時：2024年9月6日(金)16:00～17:00

担当者：井戸、藤元

場 所：2階会議室

参加者：藪森、瀬戸、矢澤、坂上、廣瀬、井戸、若月、小原、藤元

<テーマ>

各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPA の分布結果から学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する。また学習成果のその他指標についても評価し査定（アセスメント）する。

（内容） 初めに井戸先生から、2024年度前期成績の分析結果が次のように示された。

まずフィールドごとの GPA 平均値（全体 1年 2年：2024年度前期）が示された。全体ではフードフィールド（2.76）は比較的高く、医療・福祉・こどもフィールド（1.86）は低い傾向（特に1年）であることがわかった。また1, 2年ともにコース専門科目（1年：2.04、2年：2.07）も比較的低い値となっていることが示された。



次にフィールドごとの成績割合（全体 1年 2年：2024年度前期）が示された。当然ではあるが、GPA 値の高いフィールドは S や A の成績割合が高く、フードフィールド（全体）は 60% を超える結果が示された。またオフィスフィールド（2年）や観光・外国語（1年）

は、S や A の成績割合が 40% 超で比較的高いが、D の割合も高いことがわかった。

次にユニットごとの GPA 平均値（全体 1年 2年：2024年度前期）が示された。全体として履修者数が 10 人以上で比較的値が高いのは、クッキングユニット（3.02）、フードコーディネートユニット（2.66）があることが示された。また同様に比較的低いのは、メディカル秘書専門科目（1.53）、スタイリッシュライフユニット（1.94）があることもわかった。1 年として履修者数が 10 人以上で比較的値が高いのは、フードコーディネートユニット（2.81）、ホテル・ブライダルユニット（2.60）であり、低いのはトラベルユニット（1.64）、医療事務ユニット（1.72.）、外国語ユニット（1.91）であることが示された。さらに 2 年として履修者数が 10 人以上で比較的値が高いのは、クッキングユニット（3.02）、ホテル・観光専門科目（2.88）、フードコーディネートユニット（2.60）であり、低いのは基礎教育ユニット（1.95）、メディカル秘書専門科目（1.53）であることが示された。

次に GPA 平均値の高い科目（3.00 を以上）7 科目、GPA 平均値の低い科目（2.00 未満）13 科目が示された。

次に履修者数と科目の GPA 平均値の分布図が示されたが、2.27 付近を中心に、履修者数増加につれて緩やかに減少する傾向が見られた。

最後に同一科目でクラス別に、または同一教員・同一科目でクラス別に GPA 平均値 0.5 以上のバラツキがあるものが示された。同一科目・別教員では 7 科目、同一科目・同一教員でも 2 科目あることがわかった。1 年では、特に A クラスが BC クラスに比べ GPA 平均値が低い傾向にあることがわかった。

これらの結果を踏まえ年度末の非常勤講師との合同会議で成績分布結果を示し、標準化を図っていくこと、また、再試験の無い科目で D:不可が多い科目については、再試験を実施してもらう方法を検討していくことも確認された。

次に学習成果に関するいくつかの指標について処理結果が藤元先生から示された。

まず 2020 年度から 2022 年度の入学生に対する卒業データ（卒業率、退学率、就職率、進学率、進路決定率、休学率）が 3 学科別と短大全体で示された。ビジネス実務学科では、退学率の増加（2022 年度入学生 9.2%）に伴い、卒業率が減少し 2022 年度入学生では 90.1% まで減少してきている。進路決定率（就職率+進学率）は、2020 年度入学生は 85.8% であったが 2022 年度入学生は 76.7% まで減少し、進路未定で卒業している学生が増加してきている。この原因としては、学力不足のため退学する学生が増えてきていることがある。今後成績評価の基準の見直しや、再試験実施を求めていくなどの対応が必要であることが確認された。なお一部ではあるが、他専門学校等への進路変更で退学する学生もいくらかいることが報告された。

次に開講受講科目の履修者数に対する成績評価分布について、2023 年度前期・後期を学科別に処理した結果が示された。前期は、履修人数によって評価割合の大きな差は無く、履修人数が少ないほど S、D の割合が少し多くなる傾向があることが示された。後期は、履修人数が多いほど、成績が低い割合が増加する傾向があることが示された。全体的に、履修科目者数による成績分布に大きな偏りが無いことが確認された。

次に GPA 分布（1.0 未満、1.0 以上 2.0 未満、2.0 以上 3.0 未満、3.0 以上）について、2021 年度から 2023 年度で前期・後期を学科別、学年別に処理した結果が示された。1 年前期は、2021 年度から 2023 年度にかけて、下位層が増加し上位層に減少傾向があることと、2022 年度は他年度に比べ、全体的に層が同じように分かれていることが示された。2 年前期は、2023 年度 > 2021 年度 > 2022 年度の順に中間層の割合が低くなり、下位層の割合が高くなっていることが示された。1 年後期は、2021 年度から 2023 年度にかけて、下位層が増加し上位層に減少傾向があること。特に 2022 年度は 1.0-2.0 未満の割合が高かったことが示された。2 年前期は、2021 年度から 2023 年度にかけて、下位層が増加し上位層に減少傾向があることが示された。全体的には 2021 年度から 2023 年度入学生にかけて、GPA 値が低くなる傾向があることがわかった。

次に 2022 年度から 2024 年度前期の検定試験の状況が、各検定別に示された。検定によっては、ほぼ全員が受験しクラス別に処理、あるいは全体として処理した結果が示された。検定試験は回ごとに合格率が前後するため判断は難しいが、全体的な傾向として、2022 年度から 2024 年度にかけて合格率が低下し、また A クラスが他 BC クラスより合格率が低い傾向が認められた。